

道徳学習指導案

6年3組 33名 指導者 藤谷 祐一郎

本授業は、以下の検証を行うものである。

- 問題解決的な学習を取り入れたり、「深める発問」で対話活動を行ったりすることは、主体的に考え、多面的・多角的に吟味し、新しい考えを見いだす手立てとして有効であったか。

1 主題名 お互いの立場を考えて（教材名「お別れ会」〈読み物—学研教育みらい〉）

2 ねらい

物事を自分本位な見方で捉えてしまいがちであることに気付き、自分と異なる立場の意見を謙虚に受け止め、相手の過ちを広い心で許そうとする心情を育てる。 (B 相互理解, 寛容)

3 主題について

(1) 主題の価値

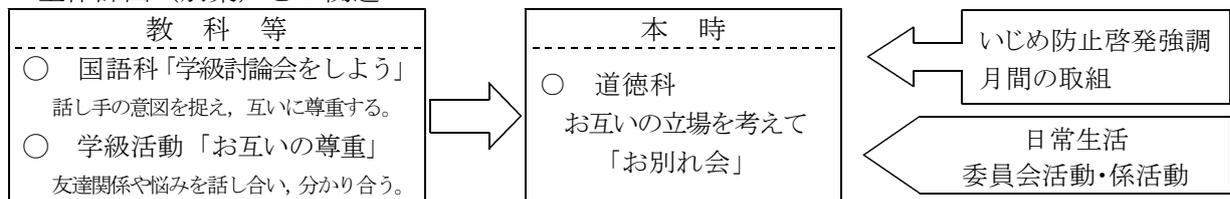
本主題は、B「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。」で、広がりと深まりのある人間関係を築くために、自分の考えを相手に伝えて相互理解を図るとともに、謙虚で広い心をもつことに関する内容項目である。これは、中学年のB「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。」からつながったもので、中学校のB「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと。」に発展するものである。

相互理解とは、自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、自分とは異なる意見や立場も広い心で受け止めて相手への理解を深めていくことである。また、寛容な心をもって他人の過ちを許すことは、自分も過ちを犯すことがあるからという自覚があり、自分に対して謙虚であるからこそできることである。そういった寛容さと謙虚さが一体のものとなったときに、広い心が生まれ、人間関係を潤滑にするものとなる。

この期の子供は、自分のものの見方や考え方についての認識が深まることから、相手のものの見方、考え方との違いをそれまで以上に意識するようになる。しかし、自分の立場を守るため、つい相手の過ちや失敗を一方的に非難したり、自分と異なる意見や立場を受け入れようとしなかったりして、周囲の人との関係を悪くすることも少なくない。互いの意見の相違を乗り越え、相手を最大限に尊重するためには、相手の意見を素直に聞き、なぜそのような考えをするのかを、相手の立場に立って考える態度を育てることが大切である。

そこで、本主題において、相手の過ちなどに対して自分にも同様のことがあることとして、相手の考えや意見を謙虚な心で受け止め、広い心で相手の立場を考えて、他人に対しても寛容になることの大切さを理解することは大変意義のあるものと考えられる。

(2) 全体計画（別業）との関連



(3) 子供の実態 平成29年4月13日 調査人数33名 複数回答, ()は反応数

① 他人の失敗や過ちを許したことがあるか。なぜ、許すことができたか。【できた経験】
ある(32) ない(1)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分も失敗するから、誰にでもあるから(09) ・ きちんと謝ったから(4) ・ 友達だったから(4) ・ いくら怒っても解決しないから(3) ・ たいしたことではなかったから(2) ・ 反省していたから(2) ・ わざとではなかったから(2) ・ 自分も許してもらったことがあるから(2) ・ 1回目だったから(2) ・ 相手にも理由があるかもしれないから(2) ・ その後、一緒に過ごしてくれたから(2) ・ 次はしないと約束したから(1) ・ 相手といやな関係になりたくないから(1)
② 他人の失敗や過ちを許せなかったことがあるか。なぜ、許すことができなかったか。【できなかった経験】
ある(20) ない(13)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 謝らなかったから(4) ・ 気持ちを考えてくれなかったから(3) ・ 大切な約束を破ったから(3) ・ わざとしていた、ふざけていたから(3) ・ すぐ大切にしていったから(2) ・ 言い訳をしたから(2) ・ 同じことを繰り返したから(2) ・ うそをつかれたから(2) ・ 大変だったから(1) ・ 注意しても聞かなかったから(1) ・ 理由を聞かなかったから(1)

③ 他人の失敗や過ちを許すことは、なぜ大切か。	【意義】
<自分にとって> ・ すっきりする, いい気持ちになる(16) ・ 仲がいい関係でいられる(7) ・ 自分のためになる(2) ・ 後悔しないですむ(2) ・ 自信がもてる(1) <相手にとって> ・ 次に生かそうとする(12) ・ うれしくなる, いい気持ちになる(11) ・ いい関係が保てる(5) ・ 安心する(4) ・ 自分も許そうとする(2) ・ 成長する(1) <周りにとって> ・ うれしくなる, いい気持ちになる(12) ・ 迷惑をかけない(7) ・ 信頼される(4) ・ 見習おうとする(3) ・ 安心する, 心配かけない(3)	
④ 他人の失敗や過ちを許すためには、どんな気持ちが大切か。	【心構え】
・ 優しい気持ち(10) ・ 相手のこと(気持ち)を考える(7) ・ 広い心をもつ(6) ・ 思いやり(5) ・ 誰でも許そうという気持ち(3) ・ あまり怒らない(3) ・ 次は気を付けてという気持ち(3) ・ 自分にも(誰でも)あると考える(3) ・ あまり気にしない(1)	

本学級の子供は、実態アンケート①②より、他人の過ちや失敗を許す経験は多いが、あまり許さなかった経験はないと考えている子もいる。許す理由は、自分にもあるという謙虚さもあるが、謝罪があるかどうか、故意かどうか、仲が良いかが判断基準になっていることが分かる。③よりその意義については、自分にとっても相手や周りにとっても、すっきりしたい気持ちにつながると理解している子供が多い。中には、人間関係の形成につながると考えている子供がいるが、あまり具体的な考えをもてていないことも分かる。また、④よりその心構えについては、相手に対する優しさや思いやり、相手のことを考えることが多く挙げられている。また、相手の立場になって考える、相手の話を受け止めることについてあまり意識していないことが分かる。

そこで、過ちや失敗があったときに対しては、まず互いの意見や考えを伝え合った上で、自分も過ちを犯すこともあるという謙虚な心で相手の立場や考えを受け止め、寛容になることの大切さに気付くことができるようにしたい。

(4) 教材の価値

本教材は、主人公の直美が友達の意見も受け止めず、転校する友達の過ちを一方向的に責めてしまい、後にすっきりしない気持ちになっていくという話である。

直美は、大の仲良しである小原さんが転校するので、お別れ会を優先し、父親から誘われた家族とのドライブを断った。しかし、お別れ会当日、家族が出かけた後に、参加する友達の都合により、お別れ会を延期するとの連絡が入る。翌日、腹立たしい気持ちが収まらない直美は、二人の友達に不満をぶつける。それでも、気持ちが収まらない直美は、小原さんも責めてしまい、時間が経つにつれて、考え直すうちに何となくすっきりしない気持ちになるという内容である。

本教材は、主人公直美の相手をなかなか許せない気持ちは共感できるものであり、子供たちが身近な問題として考えやすいものである。直美の許せない気持ちに共感させるとともに、友達三人のそれぞれの立場での言い分や気持ちも押さえることで、それぞれの考えの違いに気付くことができる。後でいやな気持ちにならないためにできたことは何か、どうすれば相手のことを許すことができたかを多面的・多角的に考え、解決に向けて話し合うことで、互いの考えや意見を謙虚な心で受け止め、広い心で相手を許すことの大切さに迫り、自己の生き方について考えることができる教材である。

4 指導に当たって

(1) 主体的な学びの視点

「見つめる」過程において、「友達が秘密にしておいてほしいことを他の人に話してしまいました。あなたはどうしますか。」という具体的な事例を挙げ、同様なことは自分にもあるという謙虚さをもって広い心で許すべきだが、それがなかなかできない心の弱さを引き出し、問題意識を高めることができるようにする。また、「振り返る」過程において、この学習で見いだした考えをまとめたり、実生活で生かせる場面を考えたりすることで、自分との関わりで捉え、自己の生き方に結び付けて考えることができるようにする。

(2) 対話的な学びの視点

「問い直す」過程において、教材を読んだ後、「ここでは何が問題ですか。」と問題を明らかにする発問を投げ掛けることで、子供が道徳的な問題を発見し、主体的に解決しようとする意欲を引き出すようにする。また、「主人公の直美は、どうすればよかったのだろう。」と問題解決を促す発問をすることで、具体的に解決する考えを話し合うことができるようにする。その際、「どうしてするのか。」「そうすると、どんな結果になるのか。」「あなたが小原さんなら、そうしてほしいか。」などの「深める発問」を投げ掛けることで、出てきた考えを多面的・多角的に吟味することができるようにする。

(3) 深い学びの視点

「問い直す」過程の最後に、主人公の二人になって役割演技をすることで、二人の気持ちに共感しながら、自分たちの考えの善し悪しを確かめることができるようにする。そうすることで、道徳的な問題を自分事として捉え、自分の日常生活にも生かすことができるようにする。

5 本時の展開

[] 子どもの意識 ○ 指導の手立て ※ 評価

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
見つめる	5	1 具体的な事例を考え、本時のめあてをつかむ。 [・ なんて勝手に言ったの、許せない。 ・ 自分にもそんなことはある。] どうすれば、相手の失敗や過ちを許せるのだろう。	○ 寛容に関わる具体的な事例を挙げ、自分にもあるという謙虚さをもって広い心で許すべきだが、なかなかできない心の弱さを引き出し、「どうすれば、相手を許せるのか。」という共通の問題意識をもつことができるようにする。
問い直す	3 2	2 資料「お別れ会」を読んで、話し合う。 (1) 資料の中で問題だと思う場面について話し合う。 [・ 直美が怒りから小原さんを責めて、いやな気持ちになったこと。 ・ 直美が友達の意見を聞かずに、不満をぶつけたこと。] (2) 直美の何となくすっきりしない気持ちについて話し合う。 [・ 私は悪くない。なんで、小原さんが泣きそうになるの。 ・ 小原さんを喜ばせるつもりだったのに、逆に悲しませてしまった。 ・ それぞれ事情があったのに、自分の気持ちばかり言い過ぎていた。 ・ かつとなりすぎた。許してあげればよかった。] (3) 延期になった翌日、直美はどうすればよかったのか話し合う。 [・ すぐにかつとせず、友達の意見もちゃんと聞いて、よく考えてから話すよ。 ・ 相手の気持ちも考えて、言い過ぎないようにする。 ・ 相手の事情をよく聞いて、そして、自分の気持ちもしっかり伝える。] (4) 自分たちで見いだした考えを基に二人のやり取りを話し合い、役割演技する。	○ 資料を読む前に、登場人物や場面の状況を確認できるようにする。 ○ 資料一読後、「この話では、何が問題だと思うか。」と発問することで、問題場면을焦点化し、道徳的な問題を発見し、主体的に解決しようとする意欲を高めることができるようにする。 ○ 直美のすっきりしない気持ちを尋ね、感情的になった状況を整理することで、相手を許せない気持ちに共感できるようにする。 ○ 直美のすっきりしない気持ちの背景には、初め、転校する小原さんを喜ばせたいという思いがあったことに確認する。また、他の友達の言い分から、直美が自分本位の考えで小原さんを責めていることに気付くことができるようにする。 (協) 「直美は、どうすればよかったのか。」と発問し、対話活動を行うことで、相手の立場に立った寛容な行動について考え、納得できる考えを見いだすことができるようにする。 ○ 「そうすると、どんな結果になるのか。」「あなたが小原さんなら、そうしてほしいか。」などの「深める発問」を投げ掛けることで、多面的・多角的に吟味することができるようにする。 (体) 直美と小原さんになって役割演技をすることで、二人の気持ちに共感しながら、自分たちの考えの善し悪しを確かめることができるようにする。
振り返る	5	3 本時の学習を振り返り、自分の考えをまとめる。 [ア 相手を許すには、相手の立場や意見を受け入れることが大切だ。 イ すぐ怒って許さないことがあった。謙虚とはどういうことか考えたい。 ウ 広い心で許すことが大切と思っていたけど、まずは意見を聞くことが必要という考えがいいと思った。]	※ 振り返る活動における子どもの考えを机間指導において次の視点で評価する。 (道徳ノート) ア 今日の学習で見いだした考えや道徳的価値について。 イ これまでの経験と実生活に生かせる場面、新たな問題について。 ウ 学びが深まった友達の考えや学び方(話し合い)について
あたためる	3	4 相手の立場を考えて広い心で許すことについて教師の説話を聞く。 [・ 広い心で相手を許すためには、相手の立場を考えることが大切だな。相手と言ひ合いになったときに使っていきたい。]	○ 学んだことをどのように場面で生かしていけるか考えさせる説話をするので、これからの実践に向けて意欲を高めることができるようにする。